

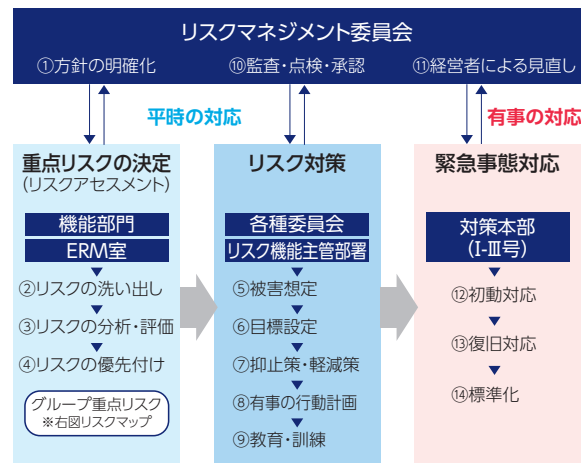
リスクマネジメント

GRI 102-11, 15, 30, 31, 33, 103-2

基本的な考え方

アイシンは、持続的成長と安定をめざす上で、リスクマネジメントを重要な経営課題と認識しています。大規模地震や気象変動に伴う河川氾濫などの自然災害、新型コロナウイルス感染症、半導体や材料などの逼迫、工業用水や電力、通信ネットワークなどインフラ停止やサイバー攻撃、さらには米中対立やロシア・ウクライナ問題に対する経済安全保障など、外部環境に起因するリスクは非常に多様化しており、自社への影響はより甚大になってきています。そのような成長を阻害する可能性のある「リスク」を常に把握し、被害の最小化と事業継続の両面から、リスクマネジメントに取り組んでいます。

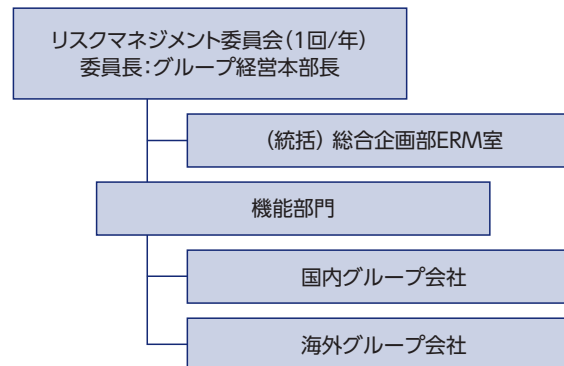
リスクマネジメントプロセス



リスクマネジメントの取り組み

アイシンは、1997年に発生した刈谷工場火災の経験を踏まえて発足したリスクマネジメント委員会のもと、リスク対策における平時および有事の対応に取り組んでいます。平時対応では、各機能部門がリスクの洗い出し、分析・評価、優先付けを行い、リスクマネジメント委員会で重点リスクとして決定します。重点リスクは各種委員会・リスク機能主管部署がリスク対策(抑止・軽減)、教育訓練・標準化を行います。これらリスク対策の実施状況は、リスクマネジメント委員会が進捗を管理しています。有事対応では、危機レベルに応じた対策本部立ち上げ、初動対応から復旧対応等の手順を計画し、早期復旧への対応力を強化しています。

リスクマネジメント体制



アイシンは、自社に影響を与える可能性のあるリスクについて、広く社内外の情報を調査し、評価しています。社内からは、社会・環境・問題に応じた各リスク主管部署やトップマネジメントへのヒアリング、社外からは、専門機関のリスク評価を加味する等によりリスクを把握し、重点リスクの優先付けを毎年実施しています。優先付けした大小さまざまなリスクは、影響度と発生確率の2軸で評価を行い、最重点17リスク、重点16リスクを選定しリスク対策を進めています。

2022年度アイシングループリスクマップ(最重点・重点)

